

令和3年度 指定管理者モニタリング結果及び評価表

1 施設の名称

施設の名称	小平町やすらぎ滞在交流拠点施設		所管課名	経済課農林係				
所在地	小平町字小平町 469 番地の 3		設置年月日	平成 17 年 12 月 29 日				
施設設置目的	都市と農村の交流を図るため。							
主な施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊研修棟（客室、エントランスホール、食堂、厨房、炊事室、シャワー室、事務室等） 737.325 m² ・加工研修室棟（加工室、パン加工室、休憩室等） 194 m² ・渡廊下棟 21.6 m² ・バーベキュー施設 焼き台 4 台 ・物置小屋 1 棟（プレハブ） ・駐車場（普通車 17 台） 							
指定管理者名	株式会社 STAY OBIRA							
選定方式	公募・ <u>非公募</u>		【非公募の理由】 ① 当該施設の性格、規模及び機能により公募することが適さないと認められるとき。（規則第 6 条第 1 項第 1 号） 2 公募に対し応募者がいないとき。（規則第 6 条第 1 項第 2 号） 3 指定管理者の候補者に選定された団体をしてすることが不可能となり、又は著しく不相当と認められる事情が生じたとき。（規則第 6 条第 1 項第 3 号）					
	(特記事項)							
指定開始年度	令和 2 年度							
指定期間	令和 2 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで (5 年間)							
指定管理者の主な業務	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持及び管理に関する業務 ・施設の使用の許可に関する業務 ・施設の使用料の徴収及び減免、返還に関する業務 							
利用料金の導入	<u>あり</u> (施設使用料)・なし							
施設の利用実績	利用区分等		利用実績 (人)					
			29 年度	30 年度	元年度	2 年度	3 年度	
	やすらぎ滞在交流拠点施設利用者数		1,271	1,262	1,446	1,152	869	
	宿泊		467	401	695	236	192	
	加工室		804	861	751	729	638	
	体験		—	—	—	10	16	
その他					177	23		
(特記事項) ・平成 29 年度から令和元年度までは町直営 ・令和 2 年度から株式会社 STAYOBIRA が運営								
指定管理料	令和 2 年度	令和 3 年度						
	8,200,000 円	8,200,000 円						
(特記事項)								
指定管理者職員体制	合計	7 人	職員	5 人	臨時	1 人	パート	人
(その他特記事項)								

2 町（所管課）による評価

指定管理者の事業計画書（提案書）の内容に基づき、その水準が達成されているか町が点検・評価するものです。

■評価の基準

優 良：高いレベルで実施されており高く評価できる。

良 好：事業計画書どおりに適切に実施されており、問題は見られない。

普 通：事業計画書どおりに概ね適切に実施されているが、一部不適切な部分の確認されたが改善済みである。

不十分：不適切な部分の確認されたので、改善を要する。

大項目	中項目	評価項目	評価				評価に対する説明
			優 良	良 好	普 通	不 十 分	
管理能力	団体の概要	団体の経営状況はどうか		○			
		当該施設管理運営をサポートする体制はあるか		○			
	適切な管理運営	町の方針、施設の設置目的等を理解した管理はされているか		○			
		町が示す施設運営方針や管理の基準等に適合しているか		○			
		公共の仕事という倫理性や法令遵守を認識し対応しているか		○			
		町や関係団体等と連携し、責任を持って事業に取り組んでいるか		○			
	町民の平等利用	正当な理由なく一部の町民に利用制限や優遇が行われていないか		○			
		事業内容に偏りがなく、利用者が限られることはないか		○			
	適切な組織・体制	職員体制や配置人員は適切であるか		○			
		現場責任者、有資格者の配置、指揮系統や責任権限は適切か		○			
		労働関係法令を遵守した規定を整備し、職員の適正な労働条件を確保しているか		○			
	職員研修・人材育成	職員研修計画や業務指導に関し、適切に実施されているか		○			
	経理及び事務処理	会計処理の基準等に基づき適正な事務処理となっているか		○			
		経理帳簿等を整備し、情報公開や監査請求に対処できるか		○			
		必要に応じパソコン等IT機器を活用できるか			○		web会議等に対応できるように機材を揃える必要がある。
		施設や設備の保守点検は、必要な基準や仕様を満たしているか		○			
		業務報告や事業報告が適切に作成されているか		○			
	安全管理	安全対策は明確で、職員の教育・訓練の実施はされているか		○			
		施錠、警備体制等は適切であるか		○			
		利用者の安全確保に関する研修を実施し、職員が内容を熟知しているか		○			

	緊急時対応	事故や災害時等緊急時の連絡体制が十分に整備されているか		○			
		避難経路の確保や避難時に支障をきたす障害物はないか		○			
	個人情報保護	個人情報の管理方法においてセキュリティ対策を講じているか		○			
	秘密の保護	職員が業務上知り得た秘密について漏洩防止対策を講じているか		○			
施設の運営	業務内容	業務について処理・対応が適切に行われているか		○			
		管理区域、業務範囲について漏れなく的確に把握されているか		○			
		事業の内容や施設の有効利用に創意工夫がされているか		○			
		年間の事業量が適切に実行されているか		○			
	業務の第三者委託	業務の第三者委託の範囲、理由、委託先は適当であるか	—	—	—	—	
		再委託先から適切に業務報告をさせるなど再委託の管理が適切か	—	—	—	—	
	経費節減・業務効率化	経費節減や業務効率化が継続的に行われているか		○			
	備品等の維持管理	引き渡した備品等に過不足はないか		○			
		引き渡した備品等はその機能が失われていないか		○			
	利用の促進	施設の利用促進に努めているか		○			
	利用者サービス	利用者サービスの向上に努めているか		○			
	障害者等への配慮	障害者、子ども、高齢者等に配慮した管理がされているか		○			
	苦情等への対応	利用者の苦情や要望、意見等に適切に対応しているか		○			
	セルフモニタリング	セルフモニタリングが適切に行われているか		○			
	環境への配慮	省エネ等の環境に配慮と廃棄物処理は適切か		○			
	地域との連携	地域住民等との連携に積極的に取り組んでいるか		○			
	自主事業	サービスの向上かつ収入増に結びついたか			○		
		収支のバランスはとれているか		○			
	特記事項への対応	募集要項における特記事項について考慮されているか	—	—	—	—	
	事業報告書	事業報告書と事業計画書を比較し、収支の過小、過大はないか		○			

3 利用者による評価

利用者アンケート	実施時期	令和3年4月10日～令和4年3月20日
	調査対象	学生、加工室利用各団体代表者、利用者会議参加者
	調査方法	口頭
調査結果	<p>部活動での合宿や宿泊研修でお越しの学生、加工室利用者から設備の不足や不備についてお聞きし、フリーWi-Fi（フレッツポータル）、加工室設備・備品についてご意見をいただいた。</p>	
利用者からの意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・数十分で接続が切れる Wi-Fi では使えない。時代に即していないのではないか。 ・大豆擦り機が良く擦れないので、当方使用中のものを持ってきても良いのだが、所有者との調整が必要。 ・豆腐造り型枠が歪んで安定しない。 ・パン加工室の中型ボウルが不足している。 	

4 指定管理者による自己評価

今年度の自己評価	<p>コロナ禍でキャンセルが相次いだ他、毎年宿泊される団体様の予約が入らない状態が続き、宿泊料収入は減収となった。加工室収入も大豆収量の減少と重なり減収となった。自主事業である体験については、教育旅行でのキャンセルで影響は比較的少なく済み、結果昨年度比微増となった。また、外部専門家による体験内容と価格の見直しや、海外旅行会社との契約を行い、集客増加を狙うなどコロナ終息後に向けた改善と準備を行った。</p> <p>Web サイトについて、これまでサブドメインを使用していたが、co.jp の独自ドメインを使用し、社会的信用を高めることとした。現在は移行作業中である。</p> <p>設備管理について、現時点では大きな問題点は無く概ね良好と考えるが、軽微な故障や動作不良を騙しながら使用している状態が続いている。</p> <p>リモートでの会議やセミナー参加について、カメラやマイクは揃っておらず一方通行となるが、視聴参加者や後日動画配信などで参加することができ、コロナ終息後の新しい日常について理解することができ、それについての対応を進めている。</p>
今後の目標	<p>コロナ拡大に左右されないと考えていた加工室利用についてもコロナキャンセルがあった。大豆収量の減少にも影響され収入減となったこと、主な利用者である町内利用者の高齢化による利用数の減少を考え、今後の上州は難しく思える。そこで、若年層にも訴求力のある加工食品（パスタ等）の製造のための新たな機器導入を考えていきたい。一旦はインバウンドからシフトし近郊近隣地域からのコンパクトな旅行先とすることを目指したが、コロナ拡大は周辺地域までおよび、集客に繋がらないことから、第一の目標は、コロナ終息を見据え準備を進めた上、国内外の旅行会社及び体験受入先と協力し、留萌管内南部 3 市町の広域展開も視野に入れた宿泊と農泊体験を旅行会社にも販売いただくとともに、依頼があれば協力体制を敷き、良好な関係を築き集客に努め、一般団体と合わせ宿泊料 100 万円、体験料 6 万円以上の売上を目標としたい。第二に、施設破損など不意事故を無</p>

	くし、節電等も今以上に進め、物価上昇にも少しでも対応していきたい。
--	-----------------------------------

5 町（所管課）による総合評価

<p>新型コロナウイルスの影響により宿泊事業は厳しい状況であった。このような中で、集客向上のための取り組みや経費削減に努めているが、収益につながるような効果を期待したい。</p> <p>コロナ禍により先行きが不透明な状況ではあるが、感染対策を行いながら当町の農泊観光より一層推進していただきたい。</p>	総合評価結果			
	優 良	良 好	普 通	不 十 分
			○	